

講義コード	1R014011
講義名	スポーツと健康
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

相澤 慎太（健康運動指導士）

目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

また担当教員の経験も紹介し、実践に役立つ知識を学習することを目的とする。

到達目標

健康・体力を管理する基本的な知識や方法を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

1. 健康とは何か？
2. 生活習慣病とは？
3. 体力とは何か？（体力テストについて）
4. 運動の仕組み①
5. 運動の仕組み②
6. トレーニング理論①（トレーニングの原理・原則）
7. トレーニング理論②（トレーニング計画）
8. トレーニング方法（レジスタンストレーニング）
9. 健康を維持・増進するための運動①
10. 健康を維持・増進するための運動②
11. ウォーミングアップ・クーリングダウン
12. 運動と水分補給
13. スポーツと心理
14. ストレスと疲労への対処法
15. まとめ

成績の評価

小レポート50% 定期試験50%

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

なし

参考資料

「健康・スポーツ科学講義」（杏林書院）

オフィスアワー

木曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階 313研究室
aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	1R047014
講義名	医学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	R1-2101
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 若山 育郎	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

若山 育郎〔医師〕

目的

現代における医療問題を理解する。

到達目標

自分なりの考え方を持つことができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. 論文の書き方
2. ワクチン
3. 医療とSNS
4. 出生前診断
5. 献体
6. 医学と倫理
7. 遺伝性疾患
8. 神経難病
9. 臓器移植
10. 往生際の形
11. 臨床試験
12. 死ぬ瞬間、死の受容
13. 積極的安楽死
14. 癌の終末期医療
15. 総括

成績の評価

毎回小論文を課し、それで評価する

自己学習

新聞、インターネットなどの医療記事に目を通すこと
 授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと

テキスト

特に指定しない

参考資料

特に指定しない

オフィスアワー

火曜・水曜 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

1号館205研究室
wakayama@kansai.ac.jp

講義コード	1R065014
講義名	英語表現法Ⅰ①
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 杉山 真央	指定なし
非常勤	板垣 浩正	指定なし

目的

リスニング、スピーキング、ライティングの各スキルの向上するための活動を行い、英語のコミュニケーション能力の基盤を強化していきます。授業のなかでは、『プラダを着た悪魔』を題材として、アメリカでの生活や文化についての知識や、英語の音声や言語の機能的な側面などについて学び、文化的・言語的な知識を深めながら学習を進めていきます。進度は受講生の理解に応じて調整する場合があります。

到達目標

本講義内で使用されている基本的な英語表現を習得し、会話に応用することができる。とりわけ、グループで活動することで、お互いの意見を英語でまとめ上げて発表することができる。この題材に関連するトピックから、会話活動や映画の場面に関する感想や意見を英語で述べられることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

1. オリエンテーション
2. 映画とその背景～特殊な用法～
3. Unit1. Job Interview
4. Unit2. First Day on the Job
5. Unit3. Hurricane on the Weekend
6. Unit4. Andy's Makeover
7. 中間課題発表準備
8. 中間課題発表
9. Unit5. Andy Meets Christian
10. Unit6. Miranda's Request
11. Unit7. Nate's Birthday
12. Unit8. Andy's Decision
13. 定期試験・期末課題提示
14. 期末課題発表準備
15. 期末課題発表

成績の評価

授業への取り組み度20%、定期試験40%、期末試験40%
ただし、4回以上欠席した場合の単位は一切認めません。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の後、全体の評価と解答例を提示する予定である。

自己学習

授業内で指示された箇所についての予習・復習。

単語テストを課すこともあります。

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキスト・辞書は必ず持参すること。

授業活動への積極的な参加が重要です。

テキスト

「Communicate in English with The Devil Wears Prada」 （松柏社）

参考資料

授業内で紹介します。

オフィスアワー

授業後に受付します。

事前にメール等で連絡してください

研究室・授業用E-mail

itagaki.pmpm@gmail.com

講義コード	1R065015
講義名	英語表現法Ⅰ②
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南澤 佑樹	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

南澤 佑樹

目的

本授業では、リーディング・ライティング・リスニング・スピーキングといった英語の基本的な技能を総合的に伸ばしていくことを目的としています。また授業内では、現代社会に関する様々なトピックを取り上げ、日本とは異なる文化に対する関心を高めることを目指します。

到達目標

1. 小説内で取り上げられている重要な語や表現を身につける。
2. 簡単な内容の小説を、辞書を用いて読むことができるようになる。
3. 簡単な英語を聞いて理解することができるようになる。
4. 自身の興味・関心のある事柄などについて、簡単な英語を用いて分かりやすく伝えることができるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

1. オリエンテーション（成績評価・授業の進め方など）
 2. The Gift of the Magi①
 3. 小テスト / The Gift of the Magi②
 4. 小テスト / The Gift of the Magi③
 5. 小テスト / The Gift of the Magi④
 6. 小テスト / The Gift of the Magi⑤
 7. 小テスト / グループワーク①
 8. グループワーク②
 9. The Gift of the Magi⑥
 10. 小テスト / The Gift of the Magi⑦
 11. 小テスト / The Gift of the Magi⑧
 12. 小テスト / プレゼンテーションの構造
 13. グループプレゼンテーション準備①
 14. グループプレゼンテーション準備②
 15. グループプレゼンテーション
- ※授業内容の理解に応じて授業の進度・内容が変更になる場合があります。

成績の評価

20%

小テスト：
グループワーク：15%
プレゼンテーション：30%
授業への参加度：35%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・小テストは、次回授業時に採点して返却します。
- ・グループワークおよびプレゼンテーションについては、授業内で解説、フィードバックを行います。

自己学習

- ・授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
- ・授業内で学習した単語やフレーズは次回の授業までに覚えてくること。
- ・翌週の学習範囲を通読し、意味の分からない単語やフレーズがあれば事前に調べておくこと。

テキスト

授業中にプリントを配布します。

参考資料

授業内で紹介します。
『英語で読むオー・ヘンリー傑作短篇集』（IBCパブリッシング）
※テキストの購入の必要はありません。

オフィスアワー

授業の前後に適宜対応します。

研究室・授業用E-mail

初回授業時に提示します。

講義コード	1R066015
講義名	英語表現法Ⅱ①
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を身につける。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 研究：電子レンジ、環境も熱する
3. Unit 2 トラック、ペルーの古代ナスカの地上絵を破壊
4. Unit 3 企業、IT技術者の確保に苦闘
5. Unit 4 世界の大手自動車メーカー、電気自動車の発売へ加速
6. Unit 5 大分の薬剤師、飲泉のガイドブックを作成
7. Unit 6 SpaceXのロケット発射、スポーツカーを宇宙に
8. Unit 7 単身世帯、2040年に40%に増加見通し
9. Unit 8 政府、学校へのEdTech実施を計画
10. Unit 9 大学、低収入家庭の子ども向け食堂運営を支援
11. Unit10 チュニジアの女子学生、制服に反旗
12. Unit11 入試に英語を加える学校が増加
13. Unit12 国際機関、海底地形に日本語名を認める
14. Unit13 語学学校、アジアの労働者を日本に向けるねらい
15. Unit14 買い物アプリ、食品ロスを減らすため試験運用

成績の評価

- ①定期考査60%、復習テスト20%、提出物20%で評価する。
- ②語学は継続して学習する事が大切であり、出席を重視する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

- ①宿題を課す。

②英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をすること。

テキスト

「Meet the World English through Newspapers 2019」 (成美堂)

参考資料

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:20～12:50

研究室・授業用E-mail

1号館2階 講師控室

講義コード	1R066016
講義名	英語表現法Ⅱ②
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を身につける。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 研究：電子レンジ、環境も熱する
3. Unit 2 トラック、ペルーの古代ナスカの地上絵を破壊
4. Unit 3 企業、IT技術者の確保に苦闘
5. Unit 4 世界の大手自動車メーカー、電気自動車の発売へ加速
6. Unit 5 大分の薬剤師、飲泉のガイドブックを作成
7. Unit 6 SpaceXのロケット発射、スポーツカーを宇宙に
8. Unit 7 単身世帯、2040年に40%に増加見通し
9. Unit 8 政府、学校へのEdTech実施を計画
10. Unit 9 大学、低収入家庭の子ども向け食堂運営を支援
11. Unit10 チュニジアの女子学生、制服に反旗
12. Unit11 入試に英語を加える学校が増加
13. Unit12 国際機関、海底地形に日本語名を認める
14. Unit13 語学学校、アジアの労働者を日本に向けるねらい
15. Unit14 買い物アプリ、食品ロスを減らすため試験運用

成績の評価

- ①定期考査60%、復習テスト20%、提出物20%で評価する。
- ②語学は継続して学習することが大切であり、出席を重視する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

- ①宿題を課す。

②英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をすること。

テキスト

「Meet the World English through Newspapers 2019」 (成美堂)

参考資料

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:20～12:50

研究室・授業用E-mail

1号館2階 講師控室

講義コード	1R115011
講義名	血液検査学Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医学検査学
科目ナンバリング	R1-3101
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕

目的

血液は有形成分（血球）と液性成分（血漿）からなり、酸素運搬、異物除去、止血などの機能をつかさどる生命維持に必須の構成成分である。また、さまざまな疾患や病態で、血球の数・成分・形態が変化することから、それらの検査は日常診療、健康診断などにおいて不可欠である。そのため臨床検査技師は血液の基礎を十分に理解しておく必要がある。そこで本講義では各血液構成成分の産生過程・形態・機能、血液凝固線溶系の基礎について学ぶ。

到達目標

1.血液の成分・性状・機能の要点を説明できるようにする。2.主な造血因子の産生・刺激する血球を示すことができるようにする。3.造血器官とその働きを理解する。4.造血部位の変遷・血球回転を説明できるようにする。5.赤血球・白血球・血小板の産生・崩壊・形態・機能・代謝を説明できるようにする。6.血液凝固線溶系の機序・制御機構を理解し、必要な用語を説明できるようにする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. ガイダンス、血液の基礎：血液の成分・性状・機能
2. 血球の産生と崩壊：血球の分化・造血因子・造血器官・造血の変遷
3. 赤血球Ⅰ：産生と崩壊
4. 赤血球Ⅱ：形態と機能
5. 赤血球Ⅲ：代謝
6. 白血球Ⅰ：産生と崩壊
7. 白血球Ⅱ：形態と機能1
8. 白血球Ⅲ：形態と機能2
9. まとめⅠ：小試験とまとめ
10. 血小板Ⅰ：産生と崩壊・形態
11. 血小板Ⅱ：機能
12. 止血機構：血管と止血
13. 血液凝固線溶系Ⅰ：凝固機序・制御機構・分子マーカー
14. 血液凝固線溶系Ⅱ：線溶機序・制御機構・分子マーカー
15. まとめⅡ：全体のまとめ

成績の評価

定期試験

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（90）分相当の予習と復習を行うこと。

予習：教科書（授業範囲）を読む。復習：教科書とともに配付資料、板書内容を確認して、要点を整理する。

履修上の注意

臨床検査技師の国家試験を受験するために必要な科目である。食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を取得するために必要な科目である。

テキスト

臨床検査学講座 血液検査学（医歯薬出版），病気がみえる vol.5 血液（メディックメディア）

参考資料

血液細胞ノート（文光堂）

オフィスアワー

火曜日 12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

hkondo@kansai.ac.jp

講義コード	1R139012
講義名	国語表現法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか
10. Ⅱ. 文の構造を考える — 2. 「ハ」の働き
11. Ⅱ. 文の構造を考える — 3. 「ガ」の働き
12. Ⅱ. 文の構造を考える — 4. 「ハ」の文、「ガ」の文
13. Ⅲ. ことばは変化する — 1. ことばの"揺れ"を観察する
14. Ⅲ. ことばは変化する — 2. 「ら抜きことば」の問題
15. Ⅲ. ことばは変化する — 3. 情報の使い方

成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・授業への取り組み度10%（授業中の小レポートにより評価）

※詳細については、授業の中で伝える。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業中に、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、普段から「日本語に対する興味・理解を深める」こと。その上で、日常のコミュニケーションの場においても、自身の言語表現に常に気を配るよう努めること。

履修上の注意

課題のレポートは、求める条件を満たして、必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。

テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

参考資料

- | | |
|---------------|--------|
| 「日本語練習帳」 | （岩波新書） |
| 「日本語はおもしろい」 | （岩波新書） |
| 「私家版 日本語文法」 | （新潮文庫） |
| 「日本語はなぜ変化するか」 | （笠間書院） |
| 「全国アホ・バカ分布考」 | （新潮文庫） |

オフィスアワー

火曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 非常勤講師控室

講義コード	1R155011
講義名	社会福祉論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1205
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 駒井 博志	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

駒井 博志（精神保健福祉士）

目的

多くの可能性をもつことが可能な時代になったものの、一方では、様々な理由により社会的な支援(社会福祉)を必要とする人たち(当事者とする)も多く存在する。本講では、当事者の状況を理解するとともに当事者が利用できる法や制度、支援内容に関する理解、また、支援を実践する専門職とその方法についての理解を深めることを目的とする。なお、授業は授業計画に基づいて行う予定であるが、授業の進捗状況(学生の理解・関心等)によって変更することもある。

到達目標

当事者の状況や支援の枠組みや支援者、支援制度形成に至る背景・歴史について理解をし、仕事に従事した時の当事者理解を深めることができるようになること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. 社会福祉とは何か
2. 基本的枠組み
3. 同 上 その2
4. 最低生活保障と生活保護制度
5. 同 上 その2
6. 児童家庭と次世代育成の展開
7. 同 上 その2
8. 高齢者の生活と福祉
9. 同 上 その2
10. 障害者の支援と福祉
11. 同 上 その2
12. 実践と方法（ソーシャルワーク）の理解
13. 同 上 その2
14. 同 上 その3
15. まとめ

成績の評価

定期試験（80～70%） およびミニレポート等の授業への取り組み度（20～30%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

講義内容の理解を深めるため、参考図書①②を利用し予習と復習を行うこと。
授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

授業終了時に、当日の授業内容に関するミニレポートの提出を求められることがあるので、出席には留意すること。

テキスト

使用しない

参考資料

- ①「新社会福祉とは何か（第3版）」大久保秀子著・中央法規出版¥1,500(税別)－講義の理解をさらに深めたい人は購入すること。
- ②「社会福祉の動向」社会福祉の動向編集委員会・中央法規出版¥2,500(税別)

講義コード	1R169025
講義名	情報科学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1106
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 竹村 匡正	指定なし

目的

昨今の情報社会の流れの中で、医療においても当然のように情報を取り扱っている。これには、検査機器が高度な情報システムとして扱われているばかりではなく、病院情報システムの導入による患者情報の共有や、病院経営への利用が進んでいる。

本講義では、医療における情報の利用について、実際の病院情報システムや先進的な事例などを広く紹介し、理解を深めると同時に今後の学生生活における基本的な情報リテラシーの習得することを目指す。

到達目標

医療における情報の利用について、また情報が医療に与える影響について、実例を含めて広く知識を習得する。と同時に、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等、今後の勉学における基本的な情報の利活用の方法を習得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. 医療と情報1
2. 医療と情報2
3. 病院と情報1 (病院のしくみ)
4. 病院と情報2 (病院情報システム)
5. 病院と情報3 (病院運営)
6. 地域医療連携システム (EHR)
7. 最先端情報技術と医療
8. 医療の情報化の今後
9. 臨床検査技師と情報科学
10. ワープロソフト演習
11. 表計算ソフト演習
12. 表計算ソフト演習
13. プレゼンテーションソフト演習
14. プレゼンテーションソフト演習
15. まとめ

成績の評価

授業時間内での課題提出 (4-5回) を基本とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業時間内で課題についての解説を実施する。

自己学習

基本的には問いませんが、動画等の資料をなるべく準備しますので、ぜひ興味を持って見直してください。講義後に参考文献を読むと、実感ができると思います。

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

資料を配布します。

参考資料

「現代電子情報通信選書 知識の森 医療情報システム」
(オーム社) 電子情報通信学会編

講義コード	1R171024
講義名	食品栄養学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	総合領域
科目ナンバリング	R1-4101
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 黒木 知美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

黒木知美（栄養士、管理栄養士）

目的

食品中の5大栄養素の構造、特性、機能、体内での働き、必要量について講義する。また病態別栄養や各ライフステージにおける栄養学的特徴を講義する。

到達目標

生体内での栄養素の役割および代謝について学び、栄養学の全体像をつかむことができる。また食品の栄養成分や嗜好性成分との関連性について学ぶことができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. 栄養と栄養素
2. 炭水化物
3. 脂質
4. タンパク質
5. 無機質
6. ビタミン
7. 消化と吸収
8. エネルギー代謝
9. 日本人の食事摂取基準
10. 栄養状態の評価
11. 特定保健用食品
12. 生理と栄養
13. 病態と栄養（糖尿病）
14. 病態と栄養（脂質異常症、高血圧）
15. 病態と栄養（腎臓病）

成績の評価

定期試験（60%） 授業への取り組み度（10%） 小テスト（30%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめておくこと。

履修上の注意

食品衛生監視員、食品衛生管理者 任用資格

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する

参考資料

「7訂 日本食品標準成分表」

「第7版 糖尿病食事療法のための食品交換表」

オフィスアワー

月曜日10：30-12：30（管理棟2階 講師控室）

講義コード	1R177011
講義名	心理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

亀 節子

目的

「人間とはどのような生命体であり、いかに感じ、行動し、生きているのか」という多岐にわたる心理学のテーマの中から、本講義では特に「感情」と「個性」をとりあげることによって、人間理解を深め、広い精神を養っていくことを目指す。

到達目標

人間理解をとおして、自らも周りの人もよくしていこうとする意欲を身につけること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

- I 「自らを知る」 & 「他者を知る」
- II 主な心理学者の理論 (フロイト&アドラー)
- II 主な心理学者の理論 (ユング、その他)
- II 主な心理学者の理論 (マズロー、その他)
- III 感情の心理学 (感情論の略史)
- III 感情の心理学 (感情の科学)
- III 感情の心理学 (情動と身体反応)
- IV 痛みの心理学
- V 運動指導の心理学的基礎 (感情と行動の適応的変化)
- V 運動指導の心理学的基礎 (個別カウンセリング方法)
- VI 遺伝と環境 (学習と記憶)
- VI 遺伝と環境 (本能の役割)
- VII コミュニケーション論 (親子の心理学)
- VII コミュニケーション論 (イメージ論&交流分析)
- VIII 古人 (いにしえびと) の人間観と 5 2 8 H z

成績の評価

定期試験（70％）および質疑応答における主体性や集中度（30％）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を学生から希望があるときに実施する。

自己学習

普段から、自らの人格に対する純な向上心を培っておくことが求められる。
1コマにつき2コマ相当（180分）の予習復習をすること。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

講義の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室・授業用E-mail

管理棟2階 204研究室・skame@kansai.ac.jp

講義コード	1R187025
講義名	人体の機能Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R1-2002
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。「生理学は医学のベースとなる科目で、コメディカルに共通して重要な学問領域である。この生理学は動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅰ」では植物性機能、つまり、循環器系、呼吸器系、消化器系、排泄器系、生殖器系、内分泌系の機能について学習する。

到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを到達目標にしてください。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. 生理学基礎と体液
2. 血液
3. 生体防御
4. 循環 (心臓の働き)
5. 循環 (循環の調節)
6. 呼吸
7. 消化と吸収 (口腔から小腸)
8. 消化と吸収 (大腸と肝臓)
9. 代謝と栄養
10. 尿の生成と排泄
11. 体温
12. 内分泌 (視床下部と下垂体)
13. 内分泌 (甲状腺、膵臓)
14. 内分泌 (副腎)
15. 生殖

成績の評価

定期試験90%、小テスト10%で評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「シンプル生理学」南江堂 改訂第7版

参考資料

講義中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日 16:30~17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階404研究室
ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1R188015
講義名	人体の機能Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R1-2004
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。この学問領域は基礎医学の中でも特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域である。臨床検査技師においてもその重要性にかわりはない。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅱ」では神経系・運動器系・感覚器系を中心とする動物性機能について学習する。

到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを到達目標にしてください。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. 筋収縮 (収縮の仕組み)
2. 筋収縮 (エネルギー供給)
3. 神経系の基礎 (興奮の伝導と伝達)
4. 神経系の基礎 (末梢神経系)
5. 自律神経 (作用)
6. 自律神経 (伝達物質と受容体)
7. 中枢神経系 (脊髄と脳幹)
8. 中枢神経系 (大脳)
9. 中枢神経系 (脳波と睡眠)
10. 感覚 (視覚)
11. 感覚 (聴覚と平衡感覚)
12. 感覚 (味覚、嗅覚、体性感覚)
13. 運動 (運動単位)
14. 運動 (反射)
15. 運動 (錐体路と錐体外路)

成績の評価

試験90%、小テスト10%で評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「シンプル生理学」南江堂 改訂第7版

参考資料

講義中に紹介する。

オフィスアワー

月曜日 16:30~17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階404研究室
ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1R189013
講義名	人体の機能実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R1-2006
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大島 稔	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大島稔、櫻葉 均

目的

人体の機能Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容をさらに深く理解するため、幾つかの生理学の項目について実習講義と実習を行う。実習の項目は以下の通りである。

- ①肺気量の測定 ②皮膚感覚：感覚点と二点弁別 ③心機能（心電図と心音） ④循環（脈波）
⑤血液と体温

到達目標

人体の機能ⅠとⅡで学習した内容をさらに深く理解し、自分の知識として確立させることを到達目標としてください。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

探究心／専門技術

授業計画

1. 実習講義（肺気量）
2. 実習（肺気量）
3. 実習講義（感覚点と二点弁別）
4. 実習（感覚点と二点弁別）
5. 実習講義（血液と体温）
6. 実習（血液と体温）
7. 実習講義（心電図）
8. 実習（心電図）
9. 実習講義（心音）
10. 実習（心音）
11. 実習講義（脈波）
12. 実習（脈波）

成績の評価

レポート60%、試験40%で評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

実習講義の内容を復習しておくこと。

テキスト

実習中にプリントを配布する。

参考資料

「シンプル生理学」南江堂 改訂第7版

オフィスアワー

月曜日 16:30~17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階404研究室
ohshima@kansai.ac.jp

講義コード	1R194025
講義名	人体の構造Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R1-2001
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

目的

人体の構造は、臨床検査技師教育の初期段階で学ぶ必要がある。なぜなら、臨床検査技師として医療現場で検査対象とする病態を理解したり、種々の検査のために臓器等の検体を取り扱ったりするには、人体の構造と構成要素（細胞、組織、臓器など）に関する正しい知識を身につけて理解しておくことが必要不可欠であるからである。この授業では、人体の骨格系、筋系、脈管系の成り立ちについて、系統解剖学の立場から体系的に学び考察することを目的とする。

到達目標

1. 人体が細胞、組織、器官、器官系が階層的・体系的に集合し成り立つことを理解している。
2. 人体を支える各部の骨格及び骨の名称や形を理解している。
3. 人体の運動を生み出す主要な筋の名称や働きを理解している。
4. 体内における血管の走行や心臓の構造について理解している。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. 講義ガイダンス、人体の成り立ち①（細胞）
2. 人体の成り立ち②（細胞、組織）
3. 人体の成り立ち③（組織、ヒトの発生）
4. 人体各部の名称、骨系①（全身の骨格、骨の一般）
5. 骨系②（頭蓋の骨、脊柱の骨）
6. 骨系③（胸郭の骨、骨盤の骨）
7. 骨系④（上肢の骨、下肢の骨）
8. 筋系①（筋の一般）
9. 筋系②（頭頸部の筋、胸部の筋）
10. 筋系③（腹部の筋、背部の筋）
11. 筋系④（上肢の筋、下肢の筋）
12. 脈管系①（血管の一般、心臓）
13. 脈管系②（心臓、動脈系）
14. 脈管系③（動脈系）
15. 脈管系④（胎児循環、静脈系、リンパ系）

成績の評価

授業中に実施する中間テストの成績（50％）と定期試験期間中に行う筆記試験の成績（50％）に基づき評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

中間テストと定期試験の終了後に、それぞれの模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「最新臨床検査学講座 解剖学（第1版）」（医歯薬出版）

参考資料

「プロメテウス解剖学アトラス」（全3巻）（医学書院）

「入門組織学（改訂第2版）」（南江堂）

オフィスアワー

毎週水曜日 16:30～18:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階201研究室・ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1R195015
講義名	人体の構造 II
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R1-2003
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

目的

人体の構造は、臨床検査技師教育の初期段階で学ぶ必要がある。なぜなら、臨床検査技師として医療現場で検査対象とする病態を理解したり、種々の検査のために臓器等の検体を取り扱ったりするには、人体の構造と構成要素（細胞、組織、臓器など）に関する正しい知識を身につけて理解しておくことが必要不可欠であるからである。この授業では、人体の内臓系、神経系、感覚器系の成り立ちについて、系統解剖学の立場から体系的に学び考察することを目的とする。

到達目標

1. 人体の呼吸、栄養、排せつ等を司る各部の内臓の構造やはたらきを理解している。
2. 人体の諸機能を統制する神経系の各部の構造やはたらきを理解している。
3. 外部環境の変化を感受する各種の感覚器の構造やはたらきを理解している。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. 消化器系①（総論、口腔）
2. 消化器系②（咽頭、食道、胃、小腸）
3. 消化器系③（大腸、肝臓、胆嚢、膵臓）
4. 呼吸器系①（鼻、咽頭、喉頭）
5. 呼吸器系②（気管、気管支、肺）
6. 内分泌系（下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、性腺、膵臓）
7. 泌尿器系①（腎臓、尿管）
8. 泌尿器系②（膀胱、尿道）、生殖器系①（男性生殖器）
9. 生殖器系②（女性生殖器）
10. 神経系①（総論、大脳）
11. 神経系②（小脳、間脳、中脳、橋、延髄、脳室）
12. 神経系③（脊髄、脳神経）
13. 神経系④（脊髄神経、自律神経）
14. 感覚器系①（視覚器）
15. 感覚器系②（平衡聴覚器）

成績の評価

授業中に実施する中間テストの成績（50%）と定期試験期間中に行う筆記試験の成績（50%）に基づき評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

中間テストと定期試験の終了後に、それぞれの模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「最新臨床検査学講座 解剖学（第1版）」（医歯薬出版）

参考資料

「プロメテウス解剖学アトラス」（全3巻）（医学書院）

「入門組織学（改訂第2版）」（南江堂）

オフィスアワー

毎週水曜日 16:30～18:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階201研究室・ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1R196013
講義名	人体の構造実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R1-2005
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

目的

この授業では、ヒトの骨標本を観察することで人体の骨格の成り立ちと各部の骨の特徴を理解し、また、ヒト主要臓器のプレパートを顕微鏡観察することで顕微鏡の操作法と観察力を身につけ、臓器の組織構造の特徴を理解して生理学的機能との関連性を考察する力を深めることを目的とする。

到達目標

1. 人体の骨格の成り立ちについて立体的に理解している。
2. 人体の主要臓器の細胞や組織学的特徴について理解している。
3. 標本の細部を肉眼および顕微鏡にて観察する力が身についている。
4. 光学顕微鏡の操作やメンテナンス、プレパートの取扱いに関する基礎技術が身についている。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

探究心／専門技術

授業計画

1. 実習の進行説明と諸注意
※以下はA班とB班が隔週で1日2コマずつ実習を行う。
2. 骨標本観察 (A班)
3. 骨標本観察 (B班)
4. 組織標本観察① (A班) /顕微鏡の操作方法、循環器系
5. 組織標本観察① (B班) /顕微鏡の操作方法、循環器系
6. 組織標本観察② (A班) /呼吸器系
7. 組織標本観察② (B班) /呼吸器系
8. 組織標本観察③ (A班) /消化器系①
9. 組織標本観察③ (B班) /消化器系①
10. 組織標本観察④ (A班) /消化器系②
11. 組織標本観察④ (B班) /消化器系②
12. 組織標本観察⑤ (A班) /泌尿器系、リンパ系
13. 組織標本観察⑤ (B班) /泌尿器系、リンパ系
14. 組織標本観察⑥ (A班) /内分泌系、神経系
15. 組織標本観察⑥ (B班) /内分泌系、神経系

成績の評価

毎回の授業終了後に提出を求める実習ノートの評価 (60%)、および定期試験期間中に行う筆記試験の成績 (40%) に基づき評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の終了後に模範解答を開示する。

自己学習

人体の構造Ⅰおよび人体の構造Ⅱの授業で学んだ内容をよく復習しておくほか、本科目のテキストの該当部分を読みこみ、予め配付される実習用資料を材料にして予習すること。また、図書館の組織学関連の蔵書を積極的に活用して各種臓器の組織像に触れる機会をつくり、理解を深めること。

テキスト

「入門組織学（改訂第2版）」（南江堂）

参考資料

「標準組織学総論（第4版）」（医学書院）

「標準組織学各論（第3版）」（医学書院）

「最新臨床検査学講座 解剖学（第1版）」（医歯薬出版）

オフィスアワー

毎週水曜日 16:30～18:00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階201研究室・ktohya@kansai.ac.jp

講義コード	1R219011
講義名	生化学 I
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学系
科目ナンバリング	R1-2103
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大西基代(臨床検査技師)

目的

生化学とは、生命現象を化学的に知ろうという学問で、医学の基礎を築く学問でもある。この授業では、生体がどのような物質でつくられ、それらがどのような意味を持っているのかが理解できる事を目的とする。臨床検査技師として必要な基礎知識の定着を図る。

到達目標

重要な生体成分の構造の特徴，機能を理解し，分類できるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／探究心

授業計画

1. 総論(生命現象と生化学, 生体の構成成分)
2. 糖質の構造(単糖類)
3. 糖質の構造(二糖類と多糖類)
4. 糖質の構造と機能(グルコースの誘導體)
5. 脂質の構造(分類)
6. 脂質の構造と機能
7. アミノ酸の構造と機能
8. タンパク質の構造と機能
9. タンパク質の構造と機能
10. 核酸・ヌクレオチド
11. ビタミンの種類と機能
12. 酵素の特徴について
13. 酵素反応と反応速度
14. 酵素反応と反応速度(阻害剤など)
15. 水・無機質

成績の評価

定期試験で成績評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

『コンパクト生化学』改訂第4版 大久保岩男 他著（南江堂）

『生化学ドリル』田村隆明 著（南山堂）

参考資料

『生化学』阿部喜代司，他著（医歯薬出版）

『生化学ガイドブック改訂第3版増補』遠藤克己 他著（南江堂）

『シンプル生化学』改訂第6版林典夫 他監修（南江堂）

『集中講義生化学』鈴木敬一郎 著（メジカルビュー社）

栄養科学イラストレイテッド『生化学改訂第2版』園田勝 編（羊土社）

『生化学ワークノート』中本伊知郎 著（メディカ出版）

『生物・生化学・分子生物学』田村隆明 著（南山堂）

オフィスアワー

月曜日12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階209研究室・onisi@kansai.ac.jp

講義コード	1R220011
講義名	生化学Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学系
科目ナンバリング	R1-2105
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中島 康仁	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中島 康仁[臨床検査技師]

目的

生化学Ⅰで学習した生体成分が、体内でどのような化学反応を受け変化するのか(代謝)、またその反応がどのように制御されているのかを学び、理解することを目的とする。

到達目標

糖類、脂質、タンパク質の代謝(異化と同化)、その他の生体成分の代謝、代謝に関与する酵素を理解し、臨床検査の基盤となる知識を修得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力/探究心

授業計画

1. 代謝の概要と糖代謝(消化吸収, グリコーゲンの代謝)
2. 糖代謝(解糖系、TCAサイクル)
3. 糖代謝(電子伝達系とエネルギー産生)
4. 糖代謝(糖新生, その他の糖質の代謝)
5. 脂質代謝(消化吸収と脂肪酸の代謝)
6. 脂質代謝(リン脂質の代謝, コレステロールの代謝)
7. 脂質代謝(リポタンパク質の代謝)
8. タンパク質・アミノ酸の代謝(アミノ基転移反応など)
9. タンパク質・アミノ酸の代謝(炭素骨格の代謝など)
10. タンパク質・アミノ酸の代謝(生理活性物質の産生)
11. ポルフィリンの代謝
12. 核酸の代謝
13. 血液と尿
14. ホルモンとホルモン様物質
15. 代謝と遺伝疾患

成績の評価

筆記試験で評価する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

『コンパクト生化学』改訂第3版 大久保岩男 他著 (南江堂)

参考資料

『生化学ガイドブック改訂第3版増補』遠藤克己 他著 (南江堂)

『シンプル生化学』改訂第6版林典夫 他監修 (南江堂)

『集中講義生化学』鈴木敬一郎 著 (メジカルビュー社)

栄養科学イラストレイテッド『生化学改訂第2版』園田勝 編 (羊土社)

『生化学ワークノート』中本伊知郎 著 (メディカ出版)

『生物・生化学・分子生物学』田村隆明 著 (南山堂)

講義コード	1R221015
講義名	生涯スポーツⅠ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

渡辺俊哉

目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

1. ガイダンス（次週からの種目選択）
2. ソフトボールの実践①
3. ソフトボールの実践②
4. ソフトボールの実践③
5. ソフトボールの実践④
6. ソフトボールの実践⑤
7. ソフトボールの実践⑥
8. ソフトボールの実践⑦
9. 卓球の実践①
10. 卓球の実践②
11. 卓球の実践③
12. バドミントンの実践①
13. バドミントンの実践②
14. バドミントンの実践③
15. バドミントンの実践④

【太極拳コース】

2. 太極拳の実践①
3. 太極拳の実践②
4. 太極拳の実践③
5. 太極拳の実践④
6. 太極拳の実践⑤

7. 太極拳の実践⑥
8. 太極拳の実践⑦
9. 太極拳の実践⑧
10. 太極拳の実践⑨
11. 太極拳の実践⑩
12. 太極拳の実践⑪
13. 太極拳の実践⑫
14. 太極拳の実践⑬
15. まとめ

成績の評価

実技試験50%・授業に対する取り組み状況50%にて評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	1R222015
講義名	生涯スポーツⅡ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 相澤 慎太	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

渡辺俊哉

目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツⅡでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

1. 【合同授業】（相澤、渡辺）

ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決定する。）

【運動ゲームコース】（担当：相澤）

2. ソフトボールの実践①
3. ソフトボールの実践②
4. ソフトボールの実践③
5. ソフトボールの実践④
6. ソフトボールの実践⑤
7. ソフトボールの実践⑥
8. ソフトボールの実践⑦
9. 卓球の実践①
10. 卓球の実践②
11. 卓球の実践③
12. 卓球の実践④
13. 卓球の実践⑤
14. 卓球の実践⑥
15. 卓球の実践⑦

【太極拳コース】

2. 太極拳の実践①
3. 太極拳の実践②
4. 太極拳の実践③
5. 太極拳の実践④
6. 太極拳の実践⑤
7. 太極拳の実践⑥
8. 太極拳の実践⑦
9. 太極拳の実践⑧
10. 太極拳の実践⑨
11. 太極拳の実践⑩
12. 太極拳の実践⑪
13. 太極拳の実践⑫
14. 太極拳の実践⑬
15. まとめ

成績の評価

実技試験50%・授業に対する取り組み状況50%にて評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

木曜日昼休み

12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

313研究室

aizawa@kansai.ac.jp

講義コード	1R226015
講義名	生命のしくみ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 弘	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

竹田 知広

目的

臨床検査学に関連する生物学的知識の習得

到達目標

臨床検査学を理解するのに最低限必要な生物学的基礎知識を習得すること

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／探究心

授業計画

- 1.細胞
- 2.無機質
- 3.糖質
- 4.脂質
- 5.タンパク質
- 6.核酸
- 7.酵素
- 8.防御タンパク質（免疫）
- 9.遺伝子（DNAとRNA）
- 10.遺伝子からタンパク質へ
- 11.遺伝子異常
- 12.糖代謝
- 13.脂質代謝
- 14.タンパク質代謝
- 15.臓器のはたらき

成績の評価

試験のみで評価する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

はじめの一步の生化学・分子生物学 第3版 (羊土社)

オフィスアワー

水曜日 12:00-13:00

研究室・授業用E-mail

2号館臨床検査学科教員室

講義コード	1R229015
講義名	生命の化学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩橋 秀夫	指定なし

目的

臨床検査学には化学を基礎とする専門科目が多い。本講義は分析化学（2年次）、生化学（1-2年次）、臨床化学（2年次）を修得するための基礎化学の修得を目指す。

到達目標

化学の基本知識の修得を通して、臨床検査学を学ぶための基礎知識及び思考力を修得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／探究心

授業計画

1. 数値の扱い方
2. 原子の構造（1）
3. 原子の構造（2）
4. 周期表
5. 化学結合（1）
6. 化学結合（2）
7. 化学結合（3）
8. 原子量、分子量およびモルの概念
9. 溶解度
10. 化学反応
11. 化学平衡と緩衝作用
12. 溶液の濃度（1）
13. 溶液の濃度（2）
14. コロイドと膜
15. 浸透圧

成績の評価

小テスト（30%）、定期試験（70%）

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。参考資料をもとに次回講義予定の内容について予習し、授業中に課した演習問題を重点に復習しておくこと。

テキスト

配布資料による。

参考資料

「臨床検査学講座化学」 (医歯薬出版株式会社)
「たのしくわかる化学」 (東京化学同人)
「ステップアップ 大学の総合化学」 (裳華房)

オフィスアワー

月曜日・金曜日 (12時20分～13時10分)

研究室・授業用E-mail

410研究室 iwahashi@kansai.ac.jp

講義コード	1R230016
講義名	生命倫理
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし
非常勤	矢本 希夫	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

矢本希夫

目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系の学生にとって学ぶべき必須の科目である。

到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で論議しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

オムニバス形式

- 第一講 生命倫理の歴史と今日的課題
- 第二講 医療情報と個人情報保護
- 第三講 インフォームド・コンセントとその法理
- 第四講 医学研究と倫理—不正行為、利益相反
- 第五講 ヒト組織・細胞等の取り扱い—社会的、法的、倫理的問題
(池田)

- 第六講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その1) —死と終末期医療
- 第七講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その2) —安楽死と尊厳死
- 第八講 「終末期と死をめぐる倫理」 (その3) —臓器移植と脳死
- 第九講 「先端医療技術と倫理」 (その1) —遺伝子診断と遺伝カウンセリング
- 第十講 「先端医療技術と倫理」 (その2) —遺伝子操作と遺伝子治療
- 第十一講 出生をめぐる倫理問題 (その1) —着床前診断と胚選別
- 第十二講 出生をめぐる倫理問題 (その2) —人工妊娠中絶と出生前診断
- 第十三講 出生をめぐる倫理問題 (その3) —生殖補助医療技術
- 第十四講 出生をめぐる倫理問題 (その4) —新生児医療

第十五講 出生をめぐる倫理問題（その5）—その他
（矢本）

成績の評価

定期試験、2人で分担出題（多肢選択問題、文章題等）にて行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

問題提起に対してよく考え、質問には自分の考えを積極的に述べること。

テキスト

特に指定はしない。講義プリント等による。

参考資料

「生命倫理と医療」（金芳堂）、「生命倫理への招待」（金芳堂）、「学生と考える生命倫理」（ナカニシヤ出版）、「看護学生のための倫理学」（金芳堂）、「医学生のための生命倫理」（丸善出版）

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階305研究室（池田）

講義コード	1R302011
講義名	病理学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎医学
科目ナンバリング	R1-2106
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 矢野 恵子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

矢野 恵子[臨床検査技師、細胞検査士、国際細胞検査士、二級病理技術士(病理学)]

目的

病理学とは、疾病の原因、なりたち、発生機序を明らかにする学問である。臨床検査の実践に活かすための知識を得、疾病の本質を理解することに繋げる。

病理学では、臓器の肉眼的観察、組織や細胞の顕微鏡的観察により、疾病の原因や発生機序を解明し、診断する。また、疾病の経過、転帰、治療への反応の程度なども推定する。医療職として、疾病の成り立ちに関する基礎知識を得ることは必要不可欠なことであり、その病因ごとに学習し理解を深める。

到達目標

疾病の本質を理解するための基礎を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. 病理学総論
2. 染色体・遺伝子・発生の異常
3. 組織細胞障害とその修復機構①
4. 組織細胞障害とその修復機構②
5. 循環障害①
6. 循環障害②
7. 代謝障害
8. 炎症①
9. 炎症②
10. 感染症
11. 腫瘍①
12. 腫瘍②
13. 腫瘍③
14. まとめ①
15. まとめ②

成績の評価

定期試験の成績で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習、復習を行うこと。

テキスト

「臨床検査講座 病理学/病理検査学」（医歯薬出版）

参考資料

「なるほどなっとく！病理学」（南江堂）

オフィスアワー

木曜日 12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

2号館専任教員室A
yano@kansai.ac.jp

講義コード	1R310015
講義名	物質と自然のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中村 正信	指定なし

目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで人体に関する物理の応用を具体例として、物質と自然の法則を学ぶ。その過程で、細かい事項を暗記するのではなく、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない、見方と考え方を身につける。

到達目標

この授業で使用するテキストは、医療系の広範囲の学生を対象としていて、さまざま話題が展開されている。一方で高校で学ぶ物理、化学、生物、数学の内容との接続が配慮されている。しかもそれらの知識がなくてもある程度理解できるようになっている。授業では、できるだけ身の回りの事象も題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合にその内容が理解できるような基礎力を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／探究心

授業計画

01. はじめに、狙い、進め方
02. 物理量と人体
03. 力と身体のバランス
04. 力と身体のバランス
05. 運動モデルとスポーツ
06. 運動モデルとスポーツ
07. 熱とエネルギー代謝
08. 熱とエネルギー代謝
09. 圧力と循環・呼吸
10. 音と聴覚・発声
11. 光と視覚
12. 電磁気と神経・興奮状態
13. 電磁気と神経・興奮状態
14. 波と画像診断
15. 放射線と人体

成績の評価

試験約67%・授業中のミニレポート約22%・授業への取り組み度約11%

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号・単位に注意すること。学習においては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

テキスト

「医療系のための物理学入門」（講談社）

参考資料

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

「まるわかり！基礎物理」（南山堂）

「自然科学の基礎としての物理学」（学術図書出版社）

オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認してください。

研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	1R335011
講義名	免疫検査学Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	医学検査学
科目ナンバリング	R1-3001
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 竹田 知広	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

竹田知広〔臨床検査技師〕

目的

臨床検査における免疫検査学の基礎となる免疫機構について正確な知識を得る。

到達目標

抗体や細胞性免疫などの基本的な免疫応答を正しく理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

- 1.免疫応答概論①（生体の防御力とは）
- 2.免疫応答概論②（体液と抗体）
- 3.免疫応答概論③（白血球と食細胞）
- 4.リンパ球の種類と分化
- 5.リンパ球の働き①（Tリンパ球）
- 6.リンパ球の働き②（Bリンパ球、NK細胞）
- 7.マクロファージ、樹状細胞
- 8.抗体の種類と基本構造
- 9.抗原抗体反応
- 10.IgGの働き、IgAと粘膜免疫
- 11.IgMと一次応答、二次応答
- 12.IgEとアレルギー反応
- 13.自然免疫
- 14.補体
- 15.抗体量測定の原理

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「免疫検査学」(医歯薬出版株式会社)
「基礎免疫学 アバス-リックマン-ピレ」(エルゼビア)

参考資料

「標準免疫学」(医学書院)

オフィスアワー

月曜日 13:00~15:00

研究室・授業用E-mail

1号館207研究室
t-takeda@kansai.ac.jp

講義コード	1R416011
講義名	科学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1101
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大西 基代(臨床検査技師)

目的

医療系における基盤の学問である生化学、解剖学や生理学などを学ぶ上で必要な知識を、知らなければならない大切なことだけに厳選し学ぶ。臨床検査技師に必要な生命現象を理解することができる基礎的な知識や自ら学ぶ力を身につけることを目的とする。

到達目標

基礎がしっかり身につけていけば、新しい事実が発見されても、また新しい分野に興味を持って理解ができ、どんな変化にでも対応できるようになる。生命に関与する物質の構造の特徴を理解でき、分類できることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／専門知識

授業計画

1. 総論(ガイダンスと必要な基礎知識)
2. 糖質の構造式(単糖類)
3. 糖質の構造式(単糖類・異性体)
4. 糖質の構造式(二糖類)
5. 糖質の構造式(多糖類)
6. 脂質の構造式(脂肪酸)
7. 脂質の構造式(リン脂質)
8. 脂質の構造式(コレステロール)
9. アミノ酸の構造式
10. アミノ酸の構造式(異性体)
11. タンパク質の構造
12. 核酸の構造式(塩基)
13. 核酸の構造(ヌクレオシド)
14. ビタミンの構造
15. 水・無機質

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

配布プリントで行う。

参考資料

『コンパクト生化学』改訂第4版 大久保岩男 他著（南江堂）
『Essential細胞生物学』原書第4版中村桂子 松原謙一監訳（南江堂）
『シンプル生化学』改訂第6版林典夫 他監修（南江堂）
カラー図解『生化学ノート』森誠 著（講談社）

オフィスアワー

月曜日12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

管理棟2階209研究室・onisi@kansai.ac.jp

講義コード	1R417011
講義名	統計学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1105
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 山西 一郎	指定なし

目的

患者データや臨床検査データを正しく解釈するための基本統計量と基礎統計学の原理を学ぶ。

到達目標

- (1) 分散、標準偏差などの基本統計量を意味を説明することができる。
- (2) 統計学的仮説検定の原理を説明することができる。
- (3) 回帰および相関分析の原理を説明することができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／探究心

授業計画

- 第1回 医療における統計学の必要性、基本統計量 ①
- 第2回 基本統計量 ②
- 第3回 正規分布の数理と性質
- 第4回 基準範囲、分布の正規化
- 第5回 \bar{x} -R精度管理
- 第6回 振り返り小テスト ①
- 第7回 回帰と相関
- 第8回 感度・特異度
- 第9回 重回帰分析
- 第10回 ロジスティック回帰分析
- 第11回 主成分分析と精度管理への応用
- 第12回 統計的仮説検定 ①
- 第13回 統計的仮説検定 ②
- 第14回 カイ2乗検定と比率の差の検定
- 第15回 振り返り小テスト ②、まとめ

成績の評価

定期試験成績より、80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可とし、不合格とする。なお、「振り返り小テスト①②③」の結果は成績の評価対象としない。

自己学習

高校数学Ⅰで学んだ「データの分析」をよく復習しておくこと。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

高校数学Ⅰで学んだこと以外の予習は必要ないが、各回の講義で学んだ内容については、テキストを参照して十分に復習すること。

テキスト

「基礎からの統計学」情報機構社

参考資料

スライド資料等は随時配布します。

研究室・授業用E-mail

yamaha@tenriyoroze-u.ac.jp

講義コード	1R418011
講義名	日本国憲法（法の基礎知識）
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 池田 裕明	指定なし

目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法
14. 労働と法
15. エピローグ

成績の評価

成績評価は、期末とミニッツペーパーおよびレポート等。
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニケーションをはかるために、ミニツツペーパーを随時実施する。このミニツツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニツツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニツツペーパーは出席調査の意味ももっている。

テキスト

- 「目で見える憲法」 (有斐閣)
- 「現代法学入門」 (有斐閣)
- 「ポケット六法 (2019年)」 (有斐閣)

参考資料

講義において紹介する

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階305研究室

講義コード	1R419011
講義名	社会学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1204
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 木村 弘之	指定なし

目的

講義では、「社会学的なもの見方」について説明していきます。感情、歩き方、子ども、家族、恋愛、結婚、食生活など具体的な事象を例に、社会的変数から焦点を当てることで、そこに意外な視点を発見していく過程を紹介していきます。

到達目標

講義で紹介する「社会学的なもの見方」について理解し、そのように捉えることのメリット、デメリットなどについて考察できるようになること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. 社会性とは① 感情と社会の規範
2. 社会性とは② ナンパ歩行と身体の規範
3. メディアと社会① ジェンダーと性別の捉え方
4. メディアと社会② 社会統計と印象の操作
5. メディアと社会③ 社会の医療化
6. メディアと社会④ 都市伝説と世間
7. 社会階層と社会① 恋愛結婚の受入れ
8. 社会階層と社会② 恋愛結婚と結婚戦略
9. 家族と社会① 高齢化社会のはじまり
10. 家族と社会② 高齢者の役割と居場所
11. 家族と社会③ 少子化社会とスウェーデン幻想
12. 家族と社会④ 児童虐待と育児不安
13. 社会と科学① 3歳児神話について
14. 社会と科学② 母子同室制と育児の知識
15. 社会と科学③ 食育とフードファディズム

成績の評価

毎回のレポートを60%、期末のレポートを40%として評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

毎回のレポートについては、次回の講義で、解答例とレポートを開示します。
 期末のレポートについては、成績発表後、解答例とレポートを開示します。

自己学習

毎回の講義内容を、毎回のレポート等を利用して、整理しておくこと。

毎回の講義内容を応用できる具体例を、日頃の生活の中で色々と探してみることに。
授業1コマにつき、2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

特にありません。

テキスト

毎回、プリントを配布します。

参考資料

講義の中で、適宜、紹介します。

オフィスアワー

講義終了後、教室にて質問を受け付けます。

講義コード	1R420011
講義名	教育学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1206
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 北山 敏和	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

北山 敏和

目的

「教育＝学校」と狭くとらえるのではなく、私たちの社会や生活のさまざまな場面、例えば家庭や保健医療の場で行われている教育的な営みにも注目し、教育の仕組み、歴史、さまざまな教育実践の形など、教育に関する基本的なことがらについて幅広く学ぶ。

また、仕事や生活など、これからの人生のさまざまな場面で活用できる、自分自身を高め伸ばして行く力、好ましい人間関係を作ってゆく力である「行動する力(＝ライフスキル)」についての基本を理解し、活用できるようにする。

学習はグループ活動とディスカッションを基本とし、受講者がそれぞれに持つ知識、経験、情報を共有することを通して、個人の能力だけではなく集団としての能力が高まることを体験的に学ぶ。

到達目標

- 1 教育の目的や方法、基本的な制度や仕組みが分かる
- 2 人間の「能力」と「教育」の関係が分かる
- 3 発達段階とその行動特性が分かる
- 4 行動する力＝ライフスキルと健康な社会の関係について分かる
- 5 ライフスキル使って自分の生活の質と仕事の質を改善向上させることが出来る

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. 教育学で何を学ぶか(オリエンテーション)
2. 遊びと学習：自然な学びと組織的・計画的な学び
3. 教育の仕組みと教育制度：学校とは何か
4. 教育と能力：人間の能力の多様性
5. 学力とは何か：将来の生活、仕事に必要な学力について考える
6. 考える力と行動する力：私たちの人生と行動する力＝ライフスキル
7. 発達段階と教育(1)発達段階とは何か
8. 発達段階と教育(2)子どもの発達と行動特性
9. 発達段階と教育(3)思春期／青年期の発達と行動特性
10. 現代の教育問題(1)コミュニケーションと創造的思考
11. 現代の教育問題(2)自尊感情と自信
12. 教育と地域社会：社会参画と奉仕活動

- 13. ニーズに応じた教育：特別支援教育
- 14. 教育と医療の協働：予防医学と健康教育
- 15. 健康な社会と教育：ヘルス・エンパワーメント

成績の評価

授業後のミニレポート50% 課題についてのレポート50%

毎授業後にミニレポートを提出し、授業期間の中間と終了時の2回、課題についてレポートを提出する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業終了後、①何を学習したのか ②新しく獲得した知識、情報、スキルは何か ③学習したことを自分の将来の生活や職業の場でどのように生かすか の観点で振り返り、まとめること。また次時のテーマとして示されたことについて、自分の考えを用意しておくこと。

履修上の注意

講義中心ではなく、グループ活動を基本としアクティブ・ラーニングで学習を展開するため、準備、後片づけを含め司会進行、記録、発表などの役割を分担し、積極的に自分の意見、考えを発表すること。

テキスト

必要な資料は配布する。

参考資料

「よく分かる教育学原論」 (ミネルヴァ書房)

「育児の国際比較—子ども社会と親たち」 (日本放送出版協会)

「ライフスキル教育入門」 (風人社)

「ライフスキル教育入門」 (風人社)

「対訳21世紀に生きる君たちへ」 (朝日出版社) 司馬遼太郎

研究室・授業用E-mail

質問等があれば E-mailで

heisan.kitayama@nifty.com

講義コード	1R421011
講義名	東洋医療の基礎・導入教育
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	GE-1001
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 後藤 きよみ	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

後藤きよみ〔臨床検査技師〕 榎田高士〔臨床検査技師〕 鍵弥朋子〔臨床検査技師〕 上北宏美〔臨床検査技師〕

目的

演習形式で体験させることを基本とし、個別学習の他、グループ・ワークを多用し、論理の組み立て方の習得や発表を通じて他のメンバーとの協調性やプレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。

到達目標

課題を適切に検討し、発表を行うまでの過程において、グループ・ワークを通じて、新入生相互が友人関係の構築や協調性、社会基礎力を身に付け、情報交換を行う力や大学生活や将来の社会活動への適応できる基礎を構築することを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

倫理に基づく行動力／協調性・コミュニケーション能力

授業計画

- 1 授業計画のガイダンスと導入教育、課題について（鍵弥）
- 2 東洋医療の入門（榎田先生）
- 3 図書館利用法や資料収集方法①（上北・後藤）
- 4 図書館利用法や資料収集方法②（上北・後藤）
- 5 プレゼンテーションの方法（鍵弥）
- 6 プレゼンテーションの実際と個人発形式（鍵弥）
- 7 グループワークとディスカッションの実際と全体発表会の形式（後藤）
- 8 個人発表
- 9 個人発表
- 10 個人発表
- 11 マナー講習
- 12 グループワークとディスカッション①
- 13 グループワークとディスカッション②
- 14 全体発表会①
- 15 全体発表会②

成績の評価

プレゼンテーション15%、課題レポート15%、定期試験70%の割合で評価を行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

フィードバックとしてレポート等に対して解説をおこなうことがある。

自己学習

提出する課題に関して、授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

講義で配布するテキストには講義の習得度などを書き込む欄があるので、講義終了後に必ず記入すること。講義内容により、使用する教室、曜日・時限が変更するので注意すること。

テキスト

授業配布テキスト

参考資料

講義中に適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日12：10～13：00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟 301研究室（楳田）

2号館 教員研究室D（後藤・鍵弥・上北）

講義コード	1R580011
講義名	臨床検査学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医学検査学
科目ナンバリング	R1-2102
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 鍵弥 朋子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘〔臨床検査技師〕、矢野恵子〔臨床検査技師〕、上田一仁〔臨床検査技師〕、大瀧博文〔臨床検査技師〕、後藤きよみ〔臨床検査技師〕、上北宏美〔臨床検査技師〕、竹田知広〔臨床検査技師〕、鍵弥朋子〔臨床検査技師〕

目的

臨床検査の各検査領域を理解し、それらに必要となる基本技術を学ぶ。臨床検査を体験して学びの楽しみを見つける。なお、当該科目はキャリア教育科目に指定されている。

到達目標

- 1.臨床検査の各検査領域を説明できる。
- 2.臨床検査周辺器具の使用法、留意点を説明できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

- 1.ガイダンス（鍵弥）
- 2.臨床検査領域①（近藤、矢野）
- 3.臨床検査領域②（上田、大瀧）
- 4.臨床検査領域③（後藤、竹田）
- 5.顕微鏡の使い方（鍵弥）
- 6.器具の取り扱い方（鍵弥）
- 7.ヒペットの使い方（竹田）
- 8.化学分析、採血（竹田）
- 9.血液検査実習
- 10.化学分析実習
- 11.微生物検査実習①
- 12.微生物検査実習②
- 13.一般検査実習
- 14.実習まとめ
- 15.まとめ

成績の評価

定期試験100%

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

標準臨床検査学 臨床検査総論（医学書院）

標準臨床検査学 検査機器総論・検査管理総論（医学書院）

オフィスアワー

12：10～13：10（鍵弥）

研究室・授業用E-mail

2号館2階専任教員室D・kagiya@kansai.ac.jp（鍵弥）、uekita@kansai.ac.jp（上北）、goto@kansai.ac.jp（後藤）

2号館2階専任教員室C・hkondo@kansai.ac.jp（近藤）

2号館2階専任教員室A・yano@kansai.ac.jp（矢野）

2号館2階専任教員室B・ueda@kansai.ac.jp（上田）

管理棟2階207研究室・t-takeda@kansai.ac.jp（竹田）、ohtaki@kansai.ac.jp（大瀧）

講義コード	1R581011
講義名	臨床検査機器の基礎
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医学検査学
科目ナンバリング	R1-2104
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 山西 八郎	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤 弘、上田 一仁、後藤 きよみ、荒川 裕也、上北 宏美、鍵弥 朋子、山西 八郎

目的

臨床検査室、実験室で使用する器具、共通機器の原理、操作上の注意点について学ぶ。

到達目標

1. 臨床検査周辺器具の使用法、留意点を概説できる。
2. 臨床検査周辺装置の使用法、留意点を概説できる。
3. 臨床検査前処理装置の使用法、留意点を概説できる。
4. 分離分析装置、電気化学装置の測定原理、使用法、留意点を概説できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. ガイダンス、周辺器具・装置1（ガラス器具）＜山西＞
2. 周辺器具・装置2（天びん）＜山西＞
3. 周辺器具・装置3（恒温装置・ふ卵器・滅菌）＜山西＞
4. 周辺器具・装置4（純粋装置・温度計・湿度計・冷蔵庫、冷凍庫）＜山西＞
5. 周辺器具・装置5（顕微鏡）、振返り小テスト①＜山西＞
6. 前処理装置＜山西＞
7. 分離分析装置1（電気泳動装置、クロマトグラフィ）＜山西＞
8. 分離分析装置2、振返り小テスト②＜山西＞
9. 測光・電気化学装置1（分光光度計、pHメーター）＜山西＞
10. 測光・電気化学装置2＜山西＞
11. 機器の使い方 1＜近藤、上田、後藤、荒川、上北、鍵弥＞
12. 機器の使い方 2＜近藤、上田、後藤、荒川、上北、鍵弥＞
13. 機器の使い方 3＜近藤、上田、後藤、荒川、上北、鍵弥＞
14. 測定装置＜山西＞
15. 振返り小テスト③、まとめ＜山西＞

成績の評価

筆記試験100%（振返り小テストは成績評価の対象とはしない）

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

標準臨床検査学

検査機器総論 検査管理総論（医学書院）

研究室・授業用E-mail

山西 八郎

yamaha@tenriyoroze-u.ac.jp

講義コード	1R584011
講義名	基礎微生物学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	医学検査学
科目ナンバリング	R1-3002
対象学科・学年	臨床検査学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大瀧 博文	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

大瀧 博文[臨床検査技師]

目的

微生物学の基礎の修得を目的とする。

到達目標

テキスト・配布資料を活用し、微生物学の基礎を体系的に理解できていること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／探究心

授業計画

1. 病原微生物の分類
2. 微生物の形態・構造・代謝
3. 微生物の増殖と培養
4. 遺伝と変異
5. 滅菌と消毒
6. 感染経路・感染経路別予防策
7. 抗菌薬の基礎
8. まとめ

成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験の解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

- ① 「最新臨床検査学講座 臨床微生物学」（医歯薬出版）
- ② 「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」（メディックメディア）
- ③ 配布資料

参考資料

- 「戸田新細菌学」（南山堂）
「微生物検査ナビ」（栄研化学）

オフィスアワー
月曜日 12:30~13:00
研究室・授業用E-mail
管理棟 207研究室